特定非営利活動法人 シビルNPO連携プラットフォーム
CNCP通信 Vol 36
平成 29 年 4 月 11 日発行

巻頭言

インフラと市民参画の活動

（特非）シビル NPO 連携プラットフォーム 常務理事
東京都市大学 工学部 都市工学科 教授
皆川 勝

ハンナ・アーレントによる労働・仕事・活動の定義（小寺聡：もう一度読む山川倫理，山川出版社より）について，Vol.24 の巻頭言で紹介した文章を再掲する．

> “労働から仕事，活動へと利益に縛られない，人間にふさわしい自由な行動となってゆき，活動は，「公共的な場で社会に関する行動をすること」と定義されている．利潤を伴わない NPO の活動は，それ自体，価値ある人間的行動である．社会的に意味のある行動は社会からサポートされることで，その貢献が継続性を持つことになる．我が国の文化は，社会的活動の意味を理解し寄付をするということが日常的に行われるほどまだ成熟していないので，NPO の活動が財政的に厳しいものとならざるを得ない．”

平成 28 年 11 月，インフラメンテナンス国民会議が設立された．準備段階では，インフラメンテナンスのビジネス化とそれによる安定したメンテナンスの実現のための活動が強調されていた．それに対して，わが CNCP は土木学会シビル NPO 推進小委員会が協力して産官学に加えて民の参画が“国民会議”には不可欠と主張し，それに関わる活動を実施することを提案した．その結果，自治体支援・技術革新・技術者育成・海外展開の各フォーラムと共に，“市民参画フォーラム”が設置された．ここに，メンテナンスのビジネス化と市民参画が大きな二本柱になったと私は認識している．

インフラに関わる市民参画の成功事例として，3.11 の復興事業として東北に防潮堤が築かれる中，気仙沼内湾における防潮堤は「防潮堤を勉強する会」（http://seawall.info/）の活動など，住民と自治体の協働が実を結び，設計コンペが実施され，防潮堤の一部の計画が変更されたことが挙げられる．残念なことは，この“成果”に対して，一部に苦々しく思う人々がいたようなことを聞いたことである．統一的な設計思想に基づいて算出された堤高と諸元を有する防潮堤をすべての地域で建設することを大方針とし，それに反する動きが好ましくないと思われていたとするなら残念である．地域の特性や地域住民の生活に配慮した社会基盤整備はシビルエンジニアの共通の使命である．我が国における市民参加はやはりまだまだ高いレベルでないということか．

そのような中で，国民会議は市民参画に真正面から取り組むプラットフォームとなった．社会基盤を創造し，それを長期的に安定して提供して国民の生命と財産を守るシビルエンジニアとしては大事にしてゆくべき基盤になりうる．しかし，一方で，国民会議は予算を持たず，すべての活動は原則として会員の手弁当で実施される点は，上記の“活動”の意味で貴重であるとはいえ，特にインフラビジネス化とは異なり市民参画はそれ自体がビジネスを生み出すわけではないので，厳しい制約である．しかし，これを乗り越えて，「公共的な場で社会に関する行動」を行っているという誇りを持ち，世代を超えて，専門家と非専門家の垣根を低くして，インフラに関わる協働を進めて行く社会の礎を築いてゆきたいと考えている．